



学校教育目標：心豊かな子 たくましい子 自ら学ぶ子

### 「ものづくり」の大切さを

校長 高野 英俊

立冬を過ぎて、本校の木々の紅葉も冷たい風に吹かれ、どんどん地面に落ちるようになりました。冬の訪れを感じます。しかし、寒さにも負けず、原小っ子は皆とても元気に過ごしています。

いよいよ2学期も最後のひと月となりました。2学期を振り返ったときに印象に残るのは、いろいろな行事での子どもたちの活動ぶりです。5年生の館岩自然の教室や6年生の修学旅行を始め、各学年の校外学習で、実際に自分の眼でみたり、体験したりすることが大いに教室での学習に役立っています。

どの学年も活動態度がよく、団体行動もしっかりととることができていました。また、持久走記録会では自分の目当てに向かって最後まで粘り強く取り組む姿が見られました。さまざま行事の中でも、校内音楽会での子どもたちの素晴らしい演奏発表は特に心うたれました。一人では難しい音楽での表現は、学年やクラスみんなで力を合わせることによってより美しく力強く聴く人の心に響いてくるものであることを体現してくれたように思います。

ところで、この友達と共に気持ちを込めて演奏発表するということは「ものづくり」の学びにつながっていると考えます。元来、日本人の手先の器用さは、広く言われていることなのですが、最近それも少し危うくなってきたとの指摘もあります。そこで、さまざまな学習場面で「ものづくり」を配慮することが大切になってくるのです。学校では、以下のことを意識して指導に当たっています。①丁寧にきちんとつくる。②粘り強く最後まで仕上げる。③できるだけ美しくつくる。④手抜きしないで、責任をもってつくる。⑤無駄にするのはもったいないと、材料を大事に使う。⑥チームワークで協力してつくる。⑦人に言われなくとも、よりよいものをつくる工夫や改善をする。例えば、国語科では文字を丁寧にきちんと書くこと、理科では正確に実験や観察をし、結果を整理し分かったことをまとめること、体育科ではチームワークよく試合運びを工夫することなど、すべての教育活動で「自分でつくった体験」と「自分でつくる意欲」を重視し、「ものづくり」の大切さを子どもたちに実感させなければならぬと思います。ぜひ、御家庭でも日常生活の具体的な場面で、「ものづくり」の大切さを話題にしていただけるとありがたいです。

今年のカレンダーも残り1枚となります。子どもたちが「元気・やる気・勇気」で2学期を締めくくれるようよう、教職員一同、さらにきめ細やかな指導をしてまいります。保護者・地域の皆様にも、変わらぬ御理解と御協力をよろしくお願いいたします。



小中合同音楽会での4年生の演奏